

数学

早稲田大学 商学部 1/1

<全体分析>

試験時間

90分

解答問題数

3題

解答形式

①は空所補充形式、②、③は記述式。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化）

出題の特徴や昨年との変更点

①は小問集合であり穴埋式であるが、他の入試であれば大問になっていてもおかしくない問題が出ることもある。受験テクニックを適用するのではなく、試行錯誤して状況を把握し、その場で考えるタイプの問題が多い。

その他トピックス

整数に関連する問題が3問出題された。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
①	(1) 数列	数学B	等差×等比型の数列の和。	標準
	(2) 図形と計量 整数	数学I 数学A	三角形の決定問題。不定方程式。内接円の半径。	標準
	(3) 積分法	数学II	定積分の値を与えて関数を決定させる。	標準
	(4) 確率 整数	数学A 数学A	さいころを振って決まる3点が正三角形となる条件。不定方程式。	難
②	空間ベクトル 微分法	数学B 数学II	空間内の三角形の面積、四面体の体積。 4次関数の最大。	標準
③	整数 数列	数学A 数学B	2次式が7、91で割り切れる条件。 等差数列の合併の100項め。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

問題文を読み、意味を理解する。よくわからなければ、条件を箇条書きにまとめたり、具体的な数字を入れて実験したり、図を描いたりして、状況を把握する。結果を予想し、方針を組み立て、必要なら場合分けして、論理的に推論し、答を導く。それを、自分以外の人が読んでわかるように簡潔に（読める字で）記述する。こうした、当たり前だが、地道な訓練を、授業の予習の際に積み上げていくことが必要である。大学入試でしか使われない技術や、大学での高度な内容を学ぶよりも、じっくり考えることが必要な問題を解く経験を積んでおいた方が傾向に即している。今年の①(4)のように息の長い議論が必要な問題もある。自分の手で最後まで答案を書きあげることが習慣にし、時間配分の感覚を身につけよう。整数、数列、組み合わせ幾何などが頻出である。過去問を遡って手応えを確かめるとよい。